佐世保市立大野中学校　学校だより　　校訓：至誠をもって　生涯を貫こう

大 野 一 心

NO.１７

令和５年６月２７日（火）　文責：校長　諸熊　修一

「いのちを見つめる講話」の感想

NO.１３でお知らせしたとおり、６月１日（木）に「いのちを見つめる講話」を行いました。全校生徒に感想を書いてもらい、一人一人の感想を読ませてもらいました。ほとんどの生徒が感想用紙の最後の一行まで書いてくれていました。中には書き足りなくて、プリントの裏にまで書いてくれた生徒までいました。全校生徒一人一人に一言コメントを書いていくのに苦労しましたが、時間をかけて講話の内容を準備した甲斐があり、とてもうれしい悲鳴でした。

全員分は紹介できませんので、各学年１名ずつ紹介します。

１年生　Ｍさん

私は、南スーダンの小さな子供たちが紛争で体も心も傷つけられていたことが分かりました。直感テストの答えが、自分とは全く逆だなと思いました。今、そのようなことが南スーダンなどの国でも行ってしまっているということに驚きました。また、南スーダンの映像を見た時は心が痛くなってしまいました。私が今、南スーダンのような人たちを助けることはできないかもしれません。しかし、募金ならできると思います。そうした小さいことでも、一人の命が守られる可能性が上がるからです。

今の日本は、紛争や戦争は起きていませんが、校長先生が言っていたように「見えない紛争」は起きてしまっていると思います。いじめやちょっとしたからかいで相手が傷ついてしまうかもしれないし、学校に来られなくなってしまう人もいると思います。私は改めて相手の気持ちを考えて、行動したり発言したりしないといけないなと思いました。小学生の頃は、いじめや差別があったら見て見ぬふりをしてしまっていました。今は、いじめや差別を見たことがありませんが、そのようなことがあったら見て見ぬふりをせずに注意することができたらいいなと思います。注意したいけど勇気が出ないこともあるかもしれませんので、そのようなことがあったら先生、友達、家族に知らせたり相談したりしようと思いました。

小学生の頃の自分の体験を基にして、「注意したいけど勇気が出ないこともあるかもしれない」という正直な気持ちを書いてくれました。そういうときには、Ｍさんも述べているように、ぜひ先生や友達、家族に相談してください。もし、いじめられている人がいたら、その人を支えて、解決に向けて一緒に考えていきましょう。

２年生　Ｎさん

私は、今日の校長先生の話、そして南スーダンという一番新しい国の現状を知った時本当に驚きました。まず最初に、校長先生がおっしゃった「答えは変えられる」というキーワード。何の話？

（裏面へ）

だろうと思っていました。そして、直感で答えるテスト。「お腹がすいた。あなたならどうする？」という質問に対しては、みんなが「ご飯を食べる」と答えていて、誰もが同じように答えるだろうと思う質問が続いた時、なぜそのような質問をするのだろうと驚きました。でも何よりも驚いたこと。それは動画のことです。「喉が渇きました。近くには川がありません」の質問に対して実際ほぼ全ての人が「飲まない」と答えると思うところで、正解は「その川の水を飲む」だったり、「鳥や犬がたくさん集まっていました。なぜでしょう」という質問に対する答えは「死体があったから」。衝撃を受けました。その話は全部、実際の南スーダンの現状だったなんて思いもしませんでした。

南スーダンの１７歳というあまり年の変わらない少女の訴え「私たちの叫びに応えてください」という最後の言葉はぐっと胸に刺さりました。突きつけられる現実と自分の理想。その差はものすごい差があるんだなということを改めて実感しました。住む環境が違うだけでこんなにも変わってくるんだなと思いました。大野中学校の中にもある「見えない紛争」。本当になくしていきたいなと改めて強く思いました。そして、理想と現実の差を少しでもいいから縮めることができるような言動・行動をしていきたいです。

南スーダンの１７歳の少女の訴えは、基本的な子どもの人権をくださいというものでした。「学校に行く権利」「食べる権利」「守られる権利」「安全に過ごす権利」など、日本では当たり前の権利が南スーダンではないがしろにされています。生徒の皆さんの感想文を読んでいると、この魂の叫びに対して、改めて自分自身の生活を振り返った人が多くいました。

３年生　０さん

世界で新しい国は暴力が多く、多くの人の命が消えていってしまうところだと聞いて、とても胸が痛くなりました。私たちの大野中学校では、「あすなろの日」という大事な大事な日があります。このことは大野中学校の生徒である限り絶対に忘れてはいけない、同じようなことをまた繰り返してはならないことだと思います。自分が知らないところでSNSによるいじめや陰口などあるかもしれません。今でも掲示物の人の顔などにいたずらをする人が大野中学校にはいます。これはいたずらではすまされない立派ないじめだと思います。してしまった人が自分のしたことを一番わかっていると思うので、きちんと反省し、今後ないように生徒会の方々や先生方、生徒のみんなで協力してなくしていきたいです。

大野中学校は「いじめの多い学校」ではなく「一人一人が安心して生活できる学校」にできるように、いじめをしている人を見かけたら見て見ぬふりではなくみんなで注意できるようにしていきたいです。最後の講話ありがとうございました。

３年生に対しては、６月１日に私から「いのちを見つめる講話」を行うのは今回で最後になりました。１年生の時は、東日本大震災を題材にして、２年生の時は、「いのちを見つめる写真」「幸せを見つめる写真」を題材にして、「いのちの大切さ」について考えてもらいました。０さんが述べてくれているように大野中学校には「あすなろの日」という大切な日があります。大野中学校を卒業しても、心の片隅に留めておいてほしいと願っています。